



*The Japanese  
Society of  
Toxicology*

**Vol. 47 No. 4  
August 2022**

# 毒性学ニュース

*Toxicology News*

一般社団法人日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

## 毒性学ニュース Contents

---

### 日本毒性学会からのお知らせ

理事長就任のご挨拶 .....	39
新理事会に望むもの .....	40
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報） .....	42
第50回日本毒性学会学術年会のご案内（第1報） .....	43
2022年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領 .....	44
2022年度日本毒性学会特別賞候補者推薦要領 .....	45
2022年度日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）候補者推薦要領 .....	46
2022年度日本毒性学会学会貢献賞候補者推薦要領 .....	47
2022年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領 .....	48
「Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」 —はじめての国際学会を経験して— .....	49
第61回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告 —Counting Education Coursesに参加して— .....	50

### その他のお知らせ

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 変異遺伝部第三室長募集 .....	51
---	----

一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

---

## 理事長就任の御挨拶

日本毒性学会理事長 務台 衛



2022年7月1日に第17代日本毒性学会理事長を拝命いたしました務台 衛 (LSIM 安全科学研究所) です。2024年までの2年間を担当します。どうぞよろしく

お願いいたします。

まず簡単に自己紹介をさせていただきます。私は1985年に化学会社に入り、農薬や医薬品の研究開発に毒性研究者・マネジメントの立場で25年関わりました。その後、医薬品の臨床開発やファーマコビジランス部門のマネジメントを約10年経験し、2020年から受託研究機関に転じて現在に至っております。本学会に入会したのは1988年、第15回学術年会(仙台)で発表するためでした。学会活動としては、第1回認定トキシコロジスト試験に合格後、数年して認定試験問題の選考委員や基礎教育講習会の委員を務め、その後理事として教育委員会等の活動に関わりました。また、2018年に第45回学術年会(大阪)を担当させていただきました。

さて、本学会が一般社団法人化して8年が経ちました。この8年の前半は財務基盤の安定化が大きな課題でしたが、経費節減、会費の値上げ、賛助会員の制度改革およびJTS誌オンライン化等の施策によりこの5年は黒字安定で推移しております。直近の3年はCOVID-19パンデミックにより、学術年会、各種講習会および認定トキシコロジスト試験等の活動継続が危ぶまれましたが、関係の先生方のご尽力により本学会の活力を大きく低下させることなく、乗り切ってきました。そこで、これからの2年間は菅野前理事長から引き継いだ諸課題について着実に対処するとともに、2024年の法人化10年の節目に向かって、本学会の更なる発展のために必要な中長期的な取り組みを開始したいと考えております。

大切なのは本学会の仲間を増やし、多様性を保ち、インタラクティブな交流を推進することです。本学会の会員数については一時期2600名超だった会員数が最近では2500名弱で推移しています。今後の推移を予測するのは容易ではないですが、創薬モダリティの多様化等、製薬会社の非臨床研究に大きな変化が起きていることも考慮し、会員数の動向と対応策を検討することは必要と考えます。また、評議員あるいは理事会メ

ンバーの女性比率の向上についても意識的に取り組むべきでしょう。賛助会員については、熊谷元理事長の下で制度を改定し会員数増加を成し遂げました。今後は毒性学研究を支える企業が参画し易いように「シルバー会員制度」の見直しを含め、検討したいと思います。

本学会における関連学会との幅広い連携は毒性学の領域横断性を活かした特長だと思います。これまで以上に諸学会への発信を継続すると共に、受信感度も高く、取り組みたいと思います。特に、IUTOX/ASIATOX/SOT/KSOT等との国際交流においては、コロナ禍で飛躍的に基盤整備されたWeb参加、オンデマンド配信等により、今後さらに時差やロケーションを超えた交流や情報交換が進むことが予想されます。国内に居ながら対応できるが増えることで、本学会代表の少人数の先生が参加する形から会員の皆様がアクセスできる機会も増えるものと思われまますので、そのような機会がありましたら皆様の積極的な参加をお願いします。

会員の相互交流の場として重要な学術年会ですが、この10年で学術年会の規模は拡大し、1200~1600名を7~9会場に集める大きな集会となっています。一方で、開催可能な大規模会議場が限られる中での会場確保、年会プログラムの多様化など学術年会長の奮闘でカバーするには負担が大きくなりつつあります。さらに、今後は上述のようにハイブリット開催、オンデマンド配信、SNS活用等が一般化することも想定され、学術年会の在り方自体も変わっていくことは不可避と思われまます。他学会の取り組み状況にも学びつつ、本学会としてどのような学術年会を志向するのか情報を整理し、議論をはじめめる時期に差し掛かっているように思います。

以上、いろいろと書き連ねましたが、本学会がなすべき第一は定款第2条に掲げられた「毒性領域の研究の進歩発展を図ること」であり、学術集会の開催、会誌の発行、トキシコロジストの教育及び資格認定等に他なりません。先達の理事長、理事会の先生方が積み上げてこられた実績や成果を継承し、2024年までの2年間、新しい理事の先生方と力を合わせ、社会貢献、社会還元にも意を払いながら本学会を更に発展させていきたいと思われまます。改めまして、会員の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

## 新理事会に望むもの



### はじめに

日本毒性学会（JSOT）第49回学術年会は石塚真由美教授（北海道大学大学院獣医学研究科）が年会長となり2022年6月30日から7月2日まで札幌市において開催された。昨年の年会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「ハイブリッド開催」となったが、今年は約1300人の参加者が会場に集まり通常の対面形式となった。

会期中の社員総会において新理事、監事（任期：2022年－2024年）が選出された。前理事会では菅野理事長を中心に新型コロナのパンデミックにもかかわらず、学会の発展に尽くされた。会員の一人として心から謝意を表する次第である。

新理事、監事会では務台 衛先生が新理事長に選出された。務台理事長は長年にわたり田辺三菱製薬株式会社において多くの要職を歴任された。日本毒性学会は初代の田辺恒義理事長以来慣習的にアカデミアから理事長が選出されたが、12代理事長（2014－2015）として真鍋 淳先生（第一三共（株）社長）が初めて企業から選出された。務台理事長には企業における多くのご経験をふまえて、学会の円滑な運営と若手会員の育成、海外との交流にこれまで以上に力を注いで頂けるものと確信している。

### 経済的基盤の確保

学会を多角的に運営するためには確固たる経済的基盤が必要である。この点で、務台理事長は企業の経営にも参画されてきたご経験から、強いリーダーシップを発揮されるものと信じている。これまで、熊谷元理事長の時代に、各企業を訪問して経済的支援を頂き、蓄財し学会を円滑に運営できたと聞いている。最近では、全国的に基礎学問の学術団体は経済的に行き詰まり、会員数も減少している学会が少なくない。

### JSOTの国際化に期待するもの

JSOTは1981年に創立されて以来IUTOX, ASIATOXを通じて海外の関連学会との交流を促進してきた。中でも米国 Society of Toxicology (SOT) とは姉妹学会として世界の毒性学研究の中心になっている。Dr. Leigh Ann Bums MaasがSOT Presidentであった2018年にSOT年会 Program bookの中で、SOTとJSOTを“Sister Toxicology Association”と記している。これはJSOTに関するSOT理事会内の共通した理解である。それを示す具体例として、SOTではannual meetingのspecial sessionにJSOTからシンポジウムや特別講演のspeakerを招待する事が多くなった。同様に、JSOTでも毎年の年会ではSOTからspeakerを招待し、JSOT-SOTのJoint Sessionを企画している。JSOTとSOTの学術交流は今後とも年を重ねるごとに密になっていくことは間違いない。

### 部会の推進

2017年に学会を活性化する目的で部会制度が新設された。現在までに「生体金属部会」と「医薬品毒性機序研究部会」が承認されている。ちなみに、SOTには29のSpecialty Sectionがあり、同一分野における研究者間で情報の共有や意見交換が活発に行われている。Specialty Sectionを設立するためには50人の賛同者が必要である。かつて、Toxicology Educationのspecialty Sectionを新設するために私は発起人の一人になったが、賛同者が30人しか集まらなかったため成立しなかった。今後SOT会員との交流を推進するにあたって、JSOTでもより多くの部会が設立されることを希望している。

SOTのSpecialty Sectionの中でJSOTの会員の専門領域から考えて、下記のSpecialty Sectionが期待される。

Drug Discovery Toxicology Specialty Section  
 Immunotoxicology Specialty Section  
*In Vitro* and Alternative Methods Specialty Section  
 Neurotoxicology Specialty Section  
 Computational Toxicology Specialty Section

可能ならば、SOT の同じ Section の member と online 会議をすることにより JSOT の国際交流や発展に貢献することとなる。

#### おわりに

JSOT は 1981 年に設立された。1961 年に設立された SOT に比べて 20 年遅れて出発した JSOT は、今や研究レベルでは SOT と肩を並べるまでに成長した。これは歴代の理事各位や会員の皆様がいかにして学会を発展させるかと切磋琢磨した結果である。中でも、ここ 10 年間は学会レベルでも SOT との交流が密接になり、姉妹学会として相互に啓発されていることは大変好ましいことである。

国際化は学会の隆盛を推進するものであり、学問の進歩を後押しする原動力になる。

科学の進歩は予想した以上に速い。それに乗り遅れない様にグローバルな視野で研究を進めるためには、高いアンテナでその動きを追跡することが必要だ。

抜群の科学的嗅覚により新理事会では JSOT をさらに活性化してほしい。7 月に入り COVID-19 への感染者が急激に増加した。おそらく第 7 波の襲来が予想される。JSOT 理事会では決して COVID-19 に感染して嗅覚を失うことのないように 2 年間の任期を全うすることを祈念して筆を擱く。

謝辞：今回寄稿の機会を与えて頂いた鍛冶編集委員長に深謝する。

2022 年 7 月 6 日  
 佐藤 哲男  
 JSOT 名誉会員  
 SOT 名誉会員  
 千葉大学名誉教授

## 日本毒性学会教育委員会からのお知らせ（第4報）

教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

### 「第25回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための試験です。受験資格の詳細については、毒性学ニュース及び学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程』をご覧ください。日本語・英語いずれかの受験になります。英語受験を希望する場合は、願書の英語受験希望欄にチェックを入れてください。

#### 1. 日 時

2022年11月20日（日）

予備日11月27日（日）

台風等の自然災害により11月20日に試験開催が困難であると判断した場合に、予備日に実施します。

なお、試験開催を延期する場合には、2日前（11月18日17時）までに受験者へご連絡いたします。

#### 2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス

#### 3. 受験料

30,000円

#### 4. 出願期間

2022年7月19日（火）～9月12日（月）消印有効

#### 「認定トキシコロジスト資格の更新」

2002年、2007年、2012年、2017年に認定トキシコロジストに認定された方となります。詳細は2022年4月頃にメールをお送りいたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『一般社団法人日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

#### 「認定トキシコロジスト試験問題作成依頼について」

資格更新のための試験問題作成の依頼は6月上旬、締め切りは8月中旬を予定しています。なお、可能な限り、2018年5月発刊の「第3版トキシコロジー」からの出題をお願いいたします。その他、詳細につきましては、2022年6月にご案内しております。

#### 「第25回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。また、トキシコロジー全般にわたる理解を深めたうえで、日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。講習は動画配信形式で2022年4月26日（火）～認定トキシコロジスト試験前までの期間で実施中です。



## 第 50 回日本毒性学会学術年会のご案内（第 1 報）

（年会ホームページ：https://jsot2023.jp）

1. 日 時  
2023 年 6 月 19 日（月）～6 月 21 日（水）
2. 会 場  
パシフィコ横浜 会議センター  
〒 220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1  
Phone：045-221-2155（総合案内）  
URL：https://www.pacifico.co.jp  
・みなとみらい線 みなとみらい駅より徒歩 5 分  
・JR 京浜東北線・横浜市営地下鉄 桜木町駅より徒歩 12 分
3. テーマ  
毒性学ってナンだ？ -そしてその先へ-
4. 年会長  
北嶋 聡  
（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部）
5. 企画委員会  
安西 尚彦（千葉大学）  
石塚真由美（北海道大学）  
上原 孝（岡山大学）  
小川久美子（国立医薬品食品衛生研究所）  
小椋 康光（千葉大学）  
小野 竜一（国立医薬品食品衛生研究所）  
諫田 泰成（国立医薬品食品衛生研究所）  
菅野 純（国立医薬品食品衛生研究所）  
熊谷 嘉人（筑波大学）  
栗形麻樹子（国立医薬品食品衛生研究所）  
齋藤 文代（岡山理科大学）  
渋谷 淳（東京農工大学）  
杉山 圭一（国立医薬品食品衛生研究所）  
鈴木 睦（協和キリン（株））  
高橋 祐次（国立医薬品食品衛生研究所）  
種村健太郎（東北大学）  
角崎 英志（（株）新日本科学）  
平林 容子（国立医薬品食品衛生研究所）  
広瀬 明彦（（一財）化学物質評価研究機構）  
黄 基旭（東北医科薬科大学）  
堀井 郁夫（ファイザー（株））  
増村 健一（国立医薬品食品衛生研究所）  
宮脇 出（住友ファーマ（株））  
務台 衛（（株）LSIM 安全科学研究所）  
森 和彦（第一三共 RD ノバーレ（株））  
山本 千夏（東邦大学）  
吉田 武美（（公社）薬剤師認定制度認証機構）  
吉成 浩一（静岡県立大学）
6. 一般講演演題募集  
2023 年 1 月から受け付ける予定です。口演及びポスターでの発表を予定しています。  
発表は会員のみとなりますので非会員の方は、入会の手続きをお願いします。  
日本毒性学会ホームページ：http://www.jsot.jp
7. 優秀研究発表賞応募演題  
2023 年 3 月 31 日時点で 35 歳以下の方を対象として候補者を募集します。
8. 学生ポスター発表賞応募演題  
学術年会（2023 年 6 月 19 日）の時点で学生（大学院生を含む、ただし社会人大学院生は除く）のポスター発表（筆頭著者）の方を対象として候補者を募集します。  
  
※ 7, 8 の賞への重複申請は不可とします。
9. 特別企画  
年会長招待講演，特別講演，教育講演，シンポジウム，ワークショップ，キャリア形成支援プログラム，市民公開セミナー等を企画予定です。市民公開セミナーは 2023 年 6 月 18 日（日）午前の開催を予定しています。
10. ランチョンセミナー，広告掲載，企業・関連団体展示等の募集  
ランチョンセミナー，広告掲載，企業・関連団体展示等を募集します。募集方法の詳細については追ってご案内いたします。
11. 参加登録と演題申し込み  
学術年会ホームページから行っていただく予定です。詳細については追ってご案内いたします。
12. 年会事務局  
〒 210-9501 川崎市川崎区殿町 3-25-26  
国立医薬品食品衛生研究所  
安全性生物試験研究センター・毒性部  
相崎 健一，小野 竜一，栗形 麻樹子，高橋 祐次  
e-mail: secretariat@jsot2023.jp  
50 回記念担当：  
務台 衛（（株）LSIM 安全科学研究所）
13. 年会ホームページ  
https://jsot2023.jp

（五十音順）

## 2023 年度日本毒性学会 学会賞 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

**候補者の資格：**現に 10 年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の 4 月 1 日に満 65 歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

**推薦者の資格：**日本毒性学会評議員。

**表彰：**授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

**受賞講演：**受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年會にて受賞講演を行う。

**候補者の推薦：**評議員 1 名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Word ファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/index.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000 字以内）
- ・学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. に掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去 5 年間に日本毒性学会学術年會で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

**推薦書類の送付先：**jsotq@jsot.jp  
（日本毒性学会事務局）

**推薦締切：**2022 年 12 月 31 日（土）



## 2023年度日本毒性学会 特別賞 候補者推薦要領

社会における毒性学の認知度の向上, 発展, 充実に大きく貢献した非会員の研究者に日本毒性学会特別賞を授与する。

**候補者の資格**：日本毒性学会非学会員。

**推薦者の資格**：日本毒性学会理事。

**表彰**：授賞者数は毎年, 最大1名とし, 賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

**受賞講演**：受賞者（或いは代理人）は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

**候補者の推薦**：理事1名の推薦を必要とする。推薦者は, 受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し, 日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名, 授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・特別賞の対象となる業績目録：原著論文, 総説・著書, 主催, 発表等

**推薦書類の送付先**：jsothq@jsot.jp  
（日本毒性学会事務局）

**推薦締切**：2022年12月31日（土）

## 2023 年度日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞） 候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会佐藤哲男賞（国際貢献賞）を授与する。

**候補者の資格：**現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

**推薦者の資格：**日本毒性学会評議員1名。

**表彰：**授賞者数は毎年、最大1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

**受賞講演：**受賞者（或いは代理人）は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

**候補者の推薦：**推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、授賞タイトルを所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（1,000字以内）
- ・佐藤哲男賞（国際貢献賞）の対象となる業績目録：原著論文、総説・著書、主催、発表等

**推薦書類の送付先：**jsotq@jsot.jp  
（日本毒性学会事務局）

**推薦締切：**2022年12月31日（土）

## 2023 年度日本毒性学会 学会貢献賞 候補者推薦要領

本会における学会活動の貢献に敬意を表し、日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に授与する。

**候補者の資格：**現に 20 年以上継続して日本毒性学会の会員であるもの。

**推薦者の資格：**日本毒性学会評議員。

**表彰：**授賞者数は毎年 1 名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

**候補者の推薦：**評議員 1 名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴、本会における委員等の職歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2,000 字以内）
- ・学会貢献賞の対象となる業績目録：学会の活動に貢献した具体的な業績

**推薦書類の送付先：**jsotHQ@jsot.jp  
(日本毒性学会事務局)

**推薦締切：**2022 年 12 月 31 日（土）

## 2023 年度日本毒性学会 奨励賞 候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

**候補者の資格：**現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下である者。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けている者は対象とならない。

**推薦者の資格：**日本毒性学会評議員。

**表彰：**授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は当該年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

**受賞講演：**受賞者は当該年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

**候補者の推薦：**評議員1名の推薦を必要とする。推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Wordファイル）は日本毒性学会ホームページ（<http://www.jsot.jp/award/encourage.html>）からダウンロードして使用すること。

- ・推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
- ・推薦理由（2000字以内）
- ・奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci. または Fundam. Toxicol. Sci. 掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
- ・過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

**推薦書類の送付先：**jsotq@jsot.jp  
（日本毒性学会事務局）

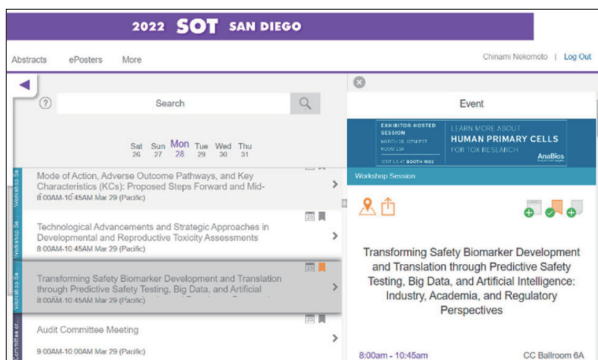
**推薦締切：**2022年12月31日（土）

## 「Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」 —はじめての国際学会を経験して—

塩野義製薬株式会社 安全性研究グループ 猫本 千波

このたび、日本毒性学会より2022年3月27日～31日に開催されました、第61回米国毒性学会にオンライン参加する機会を頂きました。本年会は、San DiegoとOnlineのHybrid開催となりましたが、オンデマンドの配信は7月31日までの5カ月間あり、長期にわたり学会参加を楽しむことができました。オンデマンド配信式のHybrid開催であったため、現地での活発なDiscussionも聞きつつ、日本時間での参加が可能となり、複数のプログラムの時間の重複に悩まされることもありませんでした。また、国際学会への参加が初めてだった私にとっては実はこれが一番のメリットだったのですが、英語の動画の視聴速度を遅くして聴講することができ、現地参加できなかったことは残念ではありましたが、非常に学びの多い充実した学会となりました。

学会と合わせて介される教育セミナーの中から、「Importance of Sexual Maturity and Reproductive Senescence in Laboratory Animal Models」及び「Juvenile Toxicology Testing: Assessing Pediatric Safety」に参加し、日本毒性学会の生涯教育講座で講演する機会を頂きました。大動物の性成熟に関する講義では、講師の豊富な経験談を紹介いただき、また、幼若毒性試験の講義では、基礎的な知識から考えられる種々のケーススタディを紹介いただき非常に実用的な内容でした。それぞれ半日間の教育セミナーを通して、専門外の分野への理解を深めることができましたので、この学びを今後の創薬研究活動に活かしていきたいと思っております。このような貴重な機会を与えていただきましたことを心より感謝いたします。



SOT 学術年会の Web 参加画面



SOT 学術年会の Poster Session

## 第61回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告 —Counting Education Coursesに参加して—

協和キリン株式会社 安全性研究所 坂口 泰子



今回、本学会のSOT教育コース（Continuing Education Courses：CEコース）への派遣制度を活用させていただき、第61回SOT学術年会とCEコースを聴講いたしました。今年のSOT学術年会は、COVID-19感染拡大状況を鑑みて、現地サンディエゴとオンラインによるハイブリッド形式で開催されました。私にとって初めてのSOT学術年会はオンラインでの参加となりましたが、現地での開放的かつ闊達な学会の様子をフォトライブラリーから伺い知ることができ、“次こそは現地参加のチャンスが来ますように”と静かに願った次第です（写真はいずれもSOTから許可を得て掲載）。

私が参加したCEコースは、医薬品の初期安全性評価について体系立てて紹介された「Safety Evaluation Strategies in Drug Discovery: From Target Assessment to Identification of Drug Candidates」と、毒性学的応用に向けた最先端のマイクロバイオーム研究方法について紹介された「Leading-Edge Microbiome Methods for Toxicological Applications」の2コースであり、このうち後半のコースの内容を基に、今年の生涯教育講習会にて紹介させていただきました（オンデマンド配信）。

前半のコースでは、医薬品開発後期に毒性が顕在化することで開発中止に追い込まれてしまうといった製薬業界共通の課題に対し、研究開発初期の段階で取りうる安全性評価（標的や化学構造に基づいた安全性評価、PK/PD、早期のin vivo毒性評価など）について、一連の方法を改めて学ぶ事が出来ました。

また、後半のコースでは、特に医薬品の非臨床安全性評価ではあまり着目されていないマイクロバイオームですが、毒性研究においてマイクロバイオームを考慮する必要性や、その解析手法、in vitro/in vivo評価系、そしてトランスレーショナルリサーチに関して事例を交えてご紹介いただきました。今後我々の研究にどのように落とし込んでいくべきかが課題ですが、今回マイクロバイオームの基礎から応用までを学び、生涯教育講習会に向けて調査しまとめられたことは、自分にとって大きな財産となりました。

最後に、このような非常に貴重な機会を与えてくださった本学会教育委員会の皆様、事務局の皆様、そしてSOT参加や生涯教育講習会での講義資料作成にあたりご支援いただきました関係者の皆様方に、心より感謝申し上げます。





その他のお知らせ

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 変異遺伝部第三室長募集

職種名	厚生労働技官
職務内容	<p>当所安全性生物試験研究センター変異遺伝部においては、化学物質、食品、農薬、医薬品等の業務関連物質の変異原性と遺伝毒性に関連する試験・研究や、新しい実験手法の開発に関する基盤研究・応用研究とこれらに必要な研究を行うと共に、開発した試験法のバリデーションや国際的なガイドライン作成など行政対応業務にも携わっている。</p> <p>変異遺伝部第三室では、業務関連物質の変異原性及び遺伝毒性に関する動物試験及びこれらに関する研究を行っている。今回募集する第三室長は、上記第三室の所掌に関する試験研究の実施、統括を業務とする。</p>
募集人数	1名
応募資格	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生命科学領域（医学，獣医学，薬学，農学，理学等）の博士の学位号取得後，概ね7年以上の研究歴を有すること。</li> <li>(2) 毒性学，動物実験に関する知識と経験があり，変異原性・遺伝毒性もしくはゲノム科学等に関連する分野において研究実績を有すること。</li> <li>(3) 変異原性・遺伝毒性予測に関する in silico 研究の実施に関して意欲と理解を有することが望ましい。</li> <li>(4) 変異遺伝部第三室に関連する研究業務を主導的に推進し，かつ統括する能力を有すること。また研究部員及び研究所内外の研究者と協力して試験・研究を遂行できる能力と人柄を有すること。</li> <li>(5) 国立試験研究機関における研究業務の意義と責務を理解し，各種化学物質の遺伝毒性からの安全性確保を目的とした行政研究の重要性を認識し，当該関連業務に対する意欲を有すること。</li> <li>(6) 外国人との専門分野での打ち合わせ，議論を行うに足る十分な英語力を有すること。</li> </ol>
勤務地	神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-26
待遇	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 給与は、「一般職の職員の給与に関する法律」（昭和 25 年法律第 95 号）等に基づき，学歴・経歴等を勘案して決定します。</li> <li>(2) 1 週間当たりの勤務時間は 38 時間 45 分（週休 2 日制）です。</li> <li>(3) 年 20 日の年次休暇（採用の年は，採用の時期により 20 日より少ない日数となります。）のほか，特別休暇（夏期・結婚・忌引・ボランティア等），病気休暇の制度が整備されています。</li> </ol>
応募方法	<p>以下の HP をご覧ください。</p> <p><a href="http://www.nihs.go.jp/oshirasejoho/kobo/20220531_01.pdf">http://www.nihs.go.jp/oshirasejoho/kobo/20220531_01.pdf</a></p>
応募締切	令和 4 年 9 月 2 日（金）（必着・締切日厳守）
連絡先	<p>国立医薬品食品衛生研究所 総務部総務課 人事係長 加藤 宏二</p> <p>電話：044 - 270 - 6600 内線 1103</p> <p>E-mail：kouji-kato@nihs.go.jp</p>
その他	

## 一般社団法人日本毒性学会の定款および規程類について

日本毒性学会の定款および規程類については、最新版が学会ホームページ ([http://www.jsot.jp/about/rule\\_list.html](http://www.jsot.jp/about/rule_list.html)) に掲載されています。

特に重要な変更があった場合は、毒性学ニュースで周知を図ることとします。

- 一般社団法人日本毒性学会 定款
- 一般社団法人日本毒性学会 評議員選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事・監事選出規程
- 一般社団法人日本毒性学会 理事および監事候補の選出に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 常置委員会共通規程
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉会員・功労会員推薦規程
- 一般社団法人日本毒性学会 入会規程
- 一般社団法人日本毒性学会 賛助会員に関する規程
- 一般社団法人日本毒性学会 特別賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 佐藤哲男賞（国際貢献賞）選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 学会貢献賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 奨励賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 技術賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 田邊賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 ファイザー賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 日化協 LRI 賞選考規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの認定制度規程
- 一般社団法人日本毒性学会 認定トキシコロジストの資格更新に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 名誉トキシコロジスト表彰に関する細則
- 一般社団法人日本毒性学会 米国毒性学会教育コースへの学会員派遣に関する規程
- J. Toxicol. Sci. 投稿規程
- Fundam.Toxicol.Sci. 投稿規程
- 一般社団法人日本毒性学会 動物実験に関する指針
- 一般社団法人日本毒性学会 個人情報の適正な管理・利用等に関する基本方針
- 一般社団法人日本毒性学会 部会に関する規程

# 新しい発見を 変わらない品質で

私たち日本クレアは、生命のあらゆる可能性を探求し発展させる基盤として、動物愛護のグローバルな視点に立った世界最高品質の実験動物を提供して参ります。



## マウス・ラット・マーモセット

### ● クローズドコロニー

- マウス** Jcl:ICR
- ラット** Jcl:SD, Jcl:Wistar  
Br/Han:WIST@Jcl(GALAS)

### ● 近交種

- マウス** C3H/HeNjcl, C3H/HeJjcl\*  
C57BL/6Njcl, C57BL/6Jjcl\*  
BALB/cAjcl, BALB/cByJjcl\*  
FVB/Njcl, DBA/2Jjcl\*, 129<sup>+Ter</sup>/Svjcl
- ラット** F344/Jcl

### ● ハイブリッド系

- マウス** B6C3F1/Jcl, B6D2F1/Jcl  
MCH(ICR)/Jcl (Multi Cross Hybrid)

### ● 疾患モデル

#### 免疫不全モデル

- マウス** BALB/cAjcl-*nu*  
C.B-17/ICr-*scid* Jcl  
NOD/Shijic-*scid* Jcl  
ALY<sup>®</sup>/NscJcl-*aly*

- ラット** F344/Njcl-*rnu*

#### 1型糖尿病モデル

- マウス** NOD/Shijcl

#### 2型糖尿病モデル

- マウス** KK/Tajcl, KK-A<sup>y</sup>/Tajcl  
BKS.Cg-*m*+/*Lepr<sup>db</sup>*/Jcl\*

- ラット** GK/Jcl, SDT/Jcl, SDT fatty/Jcl

#### アスコルビン酸合成能欠如モデル

- ラット** ODS/Shijcl-*od*

### ● 疾患モデル

#### 網膜変性疾患モデル

- ラット** RCS/Jcl-*rdy*

#### 関節リウマチモデル

- マウス** SKG/Jcl

#### 外用保湿剤・外用殺菌消毒薬効果検証モデル

- マウス** NOA/Jcl

### ● 遺伝子改変動物

#### 短期発ガン性試験モデル

- マウス** CByB6F1-Tg (HRAS)2Jic

#### 乳腺がん高感受性モデル

- ラット** Hras128/Jcl

#### 膵がん短期発がんモデル

- ラット** Kras301/Jcl

#### 生体恒常性維持機構解析モデル

- マウス** *α*-Klotho KO/Jcl

- マウス** *klotho*/Jcl

#### アレルギーモデル

- マウス** OVA-IgE/Jcl (卵アレルギー)  
TNP-IgE/Jcl (化学物質アレルギー)

### ● Germ free

- マウス** MCH(ICR)/Jcl [Gf], C57BL/6Njcl [Gf]  
BALB/cAjcl [Gf]

### ● コモンマーモセット

- Jcl:C.Marmoset(Jic) (国内生産)

## その他の取り扱い動物

### ● (公財) 実験動物中央研究所維持系統

### ● フェレット (輸入販売)

生産地：中華人民共和国／輸入販売代理店  
(株)野村事務所を通じて国内販売

## 実験動物用飼料

一般動物用飼料／家畜・家禽試験用飼料／放射線減菌飼料／特殊配合飼料／成分分析

## 器具・器材

飼育ケージ／飼育機・ラック／自動飼育システム／クリーンエアシステム／バイオハザード対策システム／空調設備・排水処理システム／管理・実験機器／施設計画コンサルティング

## 受託業務

微生物学的クリーニング／遺伝子改変マウスの作製／モノクローナル抗体作製／受精卵採取・凍結処理／凍結受精卵の供給／系統維持及び生産／各種処置動物作出／マイクロバイオーム研究のサポート(無菌動物・ノトバイオームマウス作製および受託試験)／各種受託試験 他

## 関連業務

動物輸出入／微生物モニタリング／遺伝モニタリング／各種データ／情報サービス

## 業務提携

Physiogenex社(仏)：代謝性疾患領域に特化した薬効薬理試験受託サービス  
(株)ジーピーシー研究所：イメージングマウスの作製サービス

\* This substrain is at least (a number>20 by definition) generations removed from the originating JAX<sup>®</sup> Mice strain and has NOT been re-infused with pedigreed stock from The Jackson Laboratory.



www.CLEA-Japan.com

東京 A D 部	〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7	TEL.03-5704-7050(代)
大阪 A D 部	〒564-0053 大阪府吹田市江の木町6-5	TEL.06-4861-7101(代)
【動物・飼料のご注文先: AD受注センター TEL.03-5704-7123】		
東京器材部	〒153-8533 東京都目黒区東山1-2-7	TEL.03-5704-7600(代)
大阪器材部	〒564-9953 大阪府吹田市江の木町6-5	TEL.06-4861-7105(代)
札幌出張所	〒063-0849 札幌市西区八軒九条西10-4-28	TEL.011-631-2725(代)
仙台出張所	〒983-0014 仙台市宮城野区高砂1丁目30-24	TEL.022-352-4417(代)

## 医薬品開発のトータルサポート

探索試験

前臨床試験

臨床試験

申請対応

### - 開発段階に応じた試験の実施 -

例： 非臨床探索、GLP、臨床開発（薬物濃度測定）

### - ワンストップサービス -

毒性、薬物動態、薬効薬理、非臨床コンサルティング・メディカルライティング

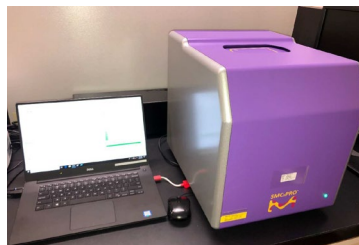
## 豊富な経験と実績

- 年間500試験を超えるバイオ医薬品の受託実績
- 各種バイオマーカーの測定と評価

LSRFortessa X-20  
(BD Biosciences)



SMCxPRO  
(Merck Millipore)



TRIPLE QUAD 7500  
(AB SCIEX)



- AAALAC International（国際実験動物ケア評価認証協会）  
在外子会社を含め全ての施設で完全認証を継続
- FDA IND/NDA電子化申請対応（CDISC SEND）



お問い合わせ先  
株式会社新日本科学





ケー・エー・シーでは医薬品の研究・開発にお使いいただける  
細胞・ヒト由来試料を取扱っております

研究用試薬

## ▶ HepaRG®・初代肝細胞



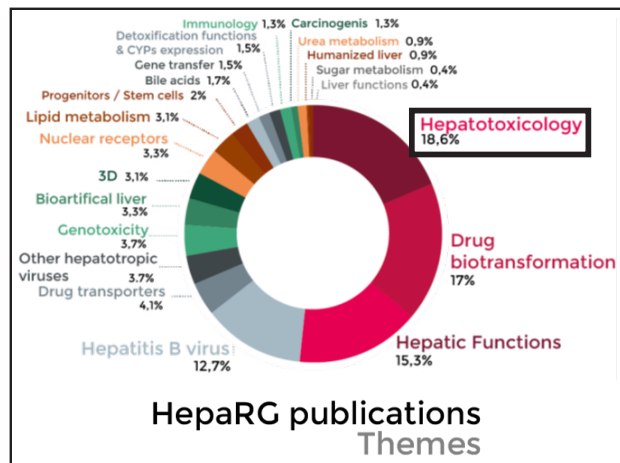
HepaRG®は、BIOPREDIC International社がライセンスを保有するヒト肝細胞セルラインです。肝細胞様形態を呈し、各種肝機能を保持・発現しており、ヒト初代肝細胞の代替ツールとして毒性試験および薬物動態などに広く利用されています。

【HepaRG®は様々な毒性評価に使用可能！】

- ①ミトコンドリア毒性の評価
- ②反応性代謝物による肝毒性評価
- ③炭水化物および脂質代謝評価
- ④胆汁うっ滞の評価

■ HepaRG®を使用した論文が多数発表されている中、  
毒性試験で多く使用されています！

また、弊社ではBIOPREDIC International社をはじめとして、  
様々なメーカーで調製された品質の良い初代肝細胞  
(ヒト、ラット、イヌ、サル等) もご用意しております。



## ▶ ECACC標準株細胞・核酸製品

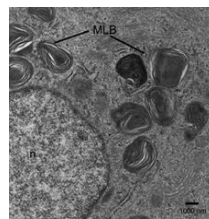


欧州最大の公的セルバンクであるECACCのセルリソース（標準株細胞・核酸製品）を、  
KAC独自のサービスとともに、**面倒な手続きなし\***でお届けしています。

\*：一部の細胞は、提供にあたり確認審査が必要になります。

【メリット！】

- ①スタンダードな株細胞は国内に常時在庫
- ②プラス5,000円で、培養状態での提供可能
- ③幾つかの起眠が難しい細胞はKACが代行
- ④KACによる迅速な技術サポート体制



## ▶ 肝毒性・腎毒性評価の受託試験



薬物トランスポーター研究のパイオニアであるSOLVO Biotechnology社にて、  
肝毒性・腎毒性評価試験などのサービスの提供も行っております。

【試験例】

- ①代謝が遅い化合物の肝毒性評価（ヒト、サル、ラット、イヌ）  
(HepatoPac®：初代肝細胞と間質細胞のマイクロパターン共培養にて評価)
- ②早期腎障害バイオマーカーパネルを用いた腎毒性の可能性の評価 等





<https://www.saibou.jp/>

▶これらの製品情報を細胞.jpでお調べ頂けます



株式会社 ケーエーシー

<https://www.kacnet.co.jp/>

お問い合わせ先  
試薬事業部  
TEL:06-6435-9747 FAX:06-6435-9748  
e-mail: shiyaku-info@kacnet.co.jp

# SLCの実験動物



## マウス

### ●アウトブリード

Sic: ddY

☆ IVCS

### ●Sic: ICR

### ●インブリード

DBA/1JmsSlc(コラーゲン薬物誘導関節炎)

BALB/cCrSlc

C57BL/6NjCrSlc-C57BL/6JmsSlc

C3H/HeSlc

C3H/HeNSlc

C3H/HeJyokSlc

DBA/2CrSlc

NZW/NSlc

A/JmsSlc

AKR/NSlc

NC/NgaSlc(薬物-アレルギー誘導アトピー性皮膚炎)

CBA/NSlc

129x1/SvJmsSlc

### ●B10コンジュニク

C57BL/10SnSlc

B10.A/SgSnSlc・B10.BR/SgSnSlc

B10.D2/nSgSnSlc・B10.S/SgSlc

### ●ハイブリッド

B6D2F1/Slc(Slc:BDF1)

Cb6F1/Slc(Slc:CBF1)

CD2F1/Slc(Slc:CDf1)

B6C3F1/Slc(Slc:B6C3F1)

※上記以外の系統については御相談ください。

### ●ヌードマウス(ミュータント系)

BALB/cSlc-*nu*(*Foxn1<sup>nu</sup>*)

KSN/Slc(*Foxn1<sup>nu</sup>*)

### ●疾患モデル

BXSB/MpJmsSlc-*Yaa*(自己免疫疾患)

C3H/HeJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas<sup>lpr</sup>*)

C57BL/6JmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas<sup>lpr</sup>*)

MRL/MpJmsSlc-*lpr*(自己免疫疾患-*Fas<sup>lpr</sup>*)

NZB/NSlc(自己免疫疾患)

NZBWF1/Slc(自己免疫疾患)

WB6F1/*Ki*;*Ki<sup>fl</sup>*/*Ki<sup>fl</sup>*/Slc(肥満細胞欠損質血-*Ki<sup>fl</sup>*/*Ki<sup>fl</sup>*)

NC/Nga(皮膚炎)

☆ Hos: HR-1(ヘアレスマウス)

☆ Hos: HRM-2(メラニン保有ヘアレスマウス)

★ SAMR1/TaSlc(SAMP系対照動物)

★ SAMP1/SkuSlc(老化アミロイド症)

★ SAMP6/TaSlc(老年性骨粗鬆症)

★ SAMP8/TaSlc(学習記憶障害)

★ SAMP10/TaldSlc(脳萎縮-うつ様行動)

### ★ SAMP10-ΔSglt2

(SGLT2変異による腎性糖尿-脳萎縮を伴う学習記憶障害-うつ様行動)

★ AKITA/Slc(糖尿病)

☆ TSOD(2型糖尿病)

C57BL/6JHamSlc-*ob/ob*(肥満-2型糖尿病-*Lepr<sup>ob</sup>*)

☆ C57BL/KS/Jm-*Lepr<sup>ob</sup>*+*Lepr<sup>ob</sup>*(肥満-2型糖尿病-*Lepr<sup>ob</sup>*)

☆ NSY/Hos(2型糖尿病)

★ Daruma(肥満)

★ HIGA/NscSlc(IgA腎症)

★ B6.KOR/StmSlc-*ApoE<sup>sh</sup>*(アポE欠損高脂血症-*ApoE<sup>sh</sup>*)

★ C.KOR/StmSlc-*ApoE<sup>sh</sup>*(アポE欠損高脂血症-*ApoE<sup>sh</sup>*)

★ C.KOR/StmSlc-*Traf3ip2<sup>sh</sup>*(アトピー性皮膚炎マウス-*Traf3ip2<sup>sh</sup>*)

## ラット

### ●アウトブリード

Sic: SD

Sic: Wistar

Sic: Wistar/ST

Hos: Donryu

☆ lar: Wistar(Wistar-Imamichi)

☆ lar: Long-Evans

### ●インブリード

F344/NSlc

WKAH/HkmSlc

BN/SsNSlc

BN/SsNSlc

DA/Slc(薬物誘導性関節炎)

LEW/SsNSlc(薬物誘導性関節炎)

### ●ヌードラット(ミュータント)

Sic: Long-Evans-*rnu/rnu*

### ●疾患モデル

★ SHR/izm(高血圧)

★ SHRSF/izm(脳卒中)

★ WKY/izm(SHR/izmのコントロール)

★ SHRSF5/Dmcr(NASHモデル[HFC調剤給餌])

★ SHRSF/Ezo(AD/HID)

DIS/EisSlc(食塩感受性高血圧症)

DIR/EisSlc(食塩抵抗性)

Sic: Zucker-*fajfa*(肥満-*Lepr<sup>fa</sup>*)

☆ Hos: ZFDM-*Lepr<sup>fa</sup>*(肥満)

HWY/Slc(ヘアレスラット)

☆ Hos: OLETF(2型糖尿病)

☆ Hos: LETO(OLETFのコントロール)

## モルモット

### ●アウトブリード

Sic: Hartley

## ウサギ

### ●アウトブリード

Sic: JW/CSK

Sic: NZW

## ハムスター

### ●アウトブリード

Sic: Syrian

### ●疾患モデル

J2N-k(心筋症モデル)

J2N-n(J2N-kのコントロール)

## スナネズミ

### ●インブリード

MON/Jms/GbsSlc

## 無菌動物

F344/NSlc(GF)

☆ Tsl: C57BL/NCr

## ENVIGO(旧ハランOEM生物動物)

### ●アウトブリードラット

RccHan<sup>®</sup>: WIST

### ●インブリードマウス

CBA/CaOlaHsd

### ●免疫不全モデルマウス

C.B-17/1crHsd-*Prkdc<sup>scid</sup>*

## 遺伝子改変動物

### ■アルツハイマー病モデル(認知症病関連モデル)

★ APP<sup>osk</sup>-Tg[C57BL/6-Tg(*APP<sup>osk</sup>*)](認知症モデル)

★ Tau609 Tg[C57BL/6-Tg(*tau609*)](認知症モデル)

★ Tau784 Tg[C57BL/6-Tg(*tau784*)](認知症モデル)

★ APP<sup>wr</sup>-Tg[C57BL/6-Tg(*APP<sup>wr</sup>*)](*Apposk*の対照動物)

★ Tau264 Tg[C57BL/6-Tg(*tau264*)](*Tau609*, *Tau784*の対照動物)

—ノックインマウス—

★ OSK-KI[C57BL/6-Tg(*OSK-KI*)](認知症モデル)

### ■EGFPモデル

#### ●マウス

C57BL/6-Tg(CAG-EGFP)(グリーンマウス)

#### ●ヌードマウス

C57BL/6-BALB/c-*nu/nu*-EGFP(EGFP全身発現ヌードマウス)

#### ●ラット

SD-Tg(CAG-EGFP)(グリーンラット)

## ■gprt deltaモデル

### ●マウス

C57BL/6JmsSlc-Tg(*gprt delta*)

### ●ラット

F344/NSlc-Tg(*gprt delta*)

## その他(クリーン動物)

### ●医薬用ベビーブタ SHIZUOKA EXPiG

☆静岡県畜産技術研究所中小家畜センター

## その他(conventional動物)

### ●ビーグル犬

☆国内繁殖生産((一財)動物繁殖研究所)

### ●マイクロミニピッグ

☆国内繁殖生産(富士マイクロ株式会社)

### ●ミニブタ

☆国内繁殖生産(日生研株式会社-NPO法人 医用ミニブタ研究所)

### ●フクロレト

☆自家繁殖生産(中伊豆支所)

### ●コモンマーマウゼット

☆自家繁殖生産(中伊豆支所)

## 受注生産動物

## マウス

### ●疾患モデル

C57BL/6 JHamSlc-*tg/tg*(NK細胞活性低下)

CTS/Shi(免疫不全-白内障)(NZWxBXSB)/F1/Slc(紫斑症)

## ラット

### ●インブリード

ACI/NSlc

### ●疾患モデル

GK/Slc(2型糖尿病)

FH/HamSlc(脳内セロトニン系の機能不全)

★ F344/NSlc-*Ap<sup>wt</sup>*(大腸癌誘発)

Gunn/Slc-*jj*(高ビリルビン血症)

## モルモット

### ●アウトブリード

Hos: Weiser-Maples(メラニン保有)

## ウサギ

### ●アウトブリード

Sic: JWF-NIBS(ヘアレス)

★印は受託生産動物、☆印は仕入販売動物です。



日本エス エル シー株式会社  
〒431-1103 静岡県浜松市西区湖東町3371-8  
TEL(053)486-3178(代) FAX(053)486-3156  
<http://www.jslc.co.jp/>

営業専用  
TEL

関東エリア (053)486-3155(代)  
関西エリア (053)486-3157(代)  
九州エリア (0942)41-1656(代)



# 一般社団法人 日本毒性学会

## [名誉会員]

今道 友則	堀口 俊一	福田 英臣	池田 正之
加藤 隆一	井村 伸正	佐藤 哲男	渡辺 民朗
榎本 真	小野寺 威	遠藤 仁	菅野 盛夫
黒川 雄二	鎌滝 哲也	赤堀 文昭	土井 邦雄
長尾 拓	福島 昭治	津田 修治	吉田 武美
堀井 郁夫	大野 泰雄	上野 光一	山添 康
永沼 章			

## [功労会員]

高仲 正	前川 昭彦	佐藤 温重	安田 峯生
菊池 康基	大沢 基保	今井 清	降矢 強
玄番 宗一	唐木 英明	仮家 公夫	暮部 勝
野村 護	牧 栄二	三森 国敏	佐神 文郎
遠山 千春	小野寺博志	杉本 哲朗	西田 信之
中村 和子	永沼 章	姫野誠一郎	眞鍋 淳
安仁屋洋子	横井 毅	久田 茂	

## [賛助会員]

### ●ダイヤモンド

(株)新日本科学

### ●プラチナ

第一三共(株)

### ●ゴールド

旭化成ファーマ(株)

アステラス製薬(株)

EAファーマ(株)

エーザイ(株)

大塚製薬(株)

花王(株)

科研製薬(株)

協和キリン(株)

三栄源エフ・エフ・アイ(株)

(株)三和化学研究所

(株)資生堂

住友ファーマ(株)

(一財)生物科学安全研究所

千寿製薬(株)

大鵬薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

帝人ファーマ(株)

トーアエイヨー(株)

(一社)日本化学工業協会

日本新薬(株)

富士フイルム(株)

(株)ボゾリサーチセンター

持田製薬(株)

ライオン(株)

Charles River

あすか製薬(株)

(株)安評センター

(株)イナリサーチ

(株)LSIM 安全科学研究所

小野薬品工業(株)

一般財団法人化学物質評価研究機構

杏林製薬(株)

興和(株)

サントリーホールディングス(株)

塩野義製薬(株)

シミックファーマサイエンス(株)

住友化学(株)

ゼリア新薬工業(株)

大正製薬(株)

武田薬品工業(株)

中外製薬(株)

(株)DIMS 医科学研究所

東レ(株)

日本香料工業会

ファイザー(株)

扶桑薬品工業(株)

Meiji Seika ファルマ(株)

(株)薬物安全性試験センター

(五十音順)

## [委員会] (2022 ~ 2023 年度) ●印：常置委員会 ◆印：小委員会

●理事長 務台 衛

●総務委員会 委員長 小椋 康光  
 ◆連携小委員会 委員長 上原 孝  
 ◆評議員選考小委員会 委員長 佐藤 雅彦  
 ◆名誉会員および功労会員選考委員会 委員長 小椋 康光  
 ◆指針値検討小委員会 委員長 広瀬 明彦  
 ◆企画戦略小委員会 委員長 宮脇 出

●財務委員会 委員長 森 和彦

●編集委員会 委員長 鍛冶 利幸  
 副委員長 古武弥一郎  
 副委員長 藤原 泰之  
 ◆JTS 編集委員会 委員長 鍛冶 利幸  
 副委員長 古武弥一郎  
 副委員長 藤原 泰之  
 ◆FTS 編集委員会 委員長 永沼 章  
 ◆Executive Editor 小委員会 委員長 永沼 章  
 ◆田邊賞選考小委員会 委員長 宮脇 出

●教育委員会 委員長 高橋 祐次  
 (小委員長・委員は10月末で交代)  
 ◆生涯教育小委員会 委員長 鈴木 睦  
 ◆基礎講習会小委員会 委員長 橋本 清弘  
 ◆認定試験小委員会 委員長 福島 民雄

●学術広報委員会 委員長 児玉 晃孝  
 ◆学会賞等選考小委員会 委員長 上野 光一  
 ◆佐藤哲男賞・学会貢献賞選考委員会 委員長 姫野誠一郎  
 ◆特別賞等選考小委員会 委員長 上野 光一  
 ◆技術賞選考小委員会 委員長 三島 雅之  
 ◆日化協 LRI 賞選考小委員会 委員長 渋谷 淳  
 ◆学術小委員会 委員長 吉成 浩一  
 ◆広報小委員会・HP 担当 委員長 児玉 晃孝  
 副委員長 宮内 慎  
 ◆トピックス小委員会 委員長 中西 剛

### ★その他関連の委員会

○IUTOX 担当  
 Executive Committee, Director 熊谷 嘉人  
 Nominating Committee, Chair 菅野 純  
 ○ASIATOX 担当  
 ASIATOX Councilor 田口 恵子  
 ○SOT 担当 広瀬 明彦  
 ○日本学術会議担当 委員 石塚真由美

## [役員] (2022 ~ 2023 年度)

理事長	務台 衛		
理事	朝倉 省二	安西 尚彦	上原 孝
	小椋 康光	鍛冶 利幸	菅野 純
	古武弥一郎	児玉 晃孝	佐藤 雅彦
	渋谷 淳	高橋 祐次	奈良岡 準
	広瀬 明彦	黄 基旭	福島 民雄
	宮内 慎	宮脇 出	森 和彦
	山本 千夏		
監事	天野 幸紀	三浦 伸彦	

## [学術年会長]

第49回 (2022年) 石塚真由美  
 第50回 (2023年) 北嶋 聡  
 第51回 (2024年) 上原 孝  
 第52回 (2025年) 黄 基旭

2022年8月1日 印刷

2022年8月1日 発行

発行人 務台 衛

編集人 鍛冶利幸

発行所 一般社団法人日本毒性学会

学会事務局 〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1

パレスサイドビル

(株)毎日学術フォーラム

一般社団法人日本毒性学会事務局

TEL (03) 6267-4550 FAX (03) 6267-4555

E-mail : [jsothq@jsot.jp](mailto:jsothq@jsot.jp)

振替 00150-9-426831

<http://www.jsot.jp>

印刷所 株式会社 センキョウ

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2

TEL (022) 236-7161